

(様式第4号)

上田市地域情報化推進委員会 会議概要

1	審議会名	上田市地域情報化推進委員会
2	日時	令和7年12月19日 午後1時30分から午後3時00分まで
3	会場	市役所本庁舎 4階 庁議室
4	出席者	小林一樹会長、西入幸代副会長、萱津理佳委員、合原亮一委員、林ゆかり委員、 増澤宗委員 松木美恵オブザーバー（総務省信越総合通信局情報通信振興課情報通信連携推進官）、 亦野直人オブザーバー（総務省信越総合通信局情報通信振興課係員）
5	市側出席者	大矢政策企画部長、市村 DX 推進課長、徳田情報システム課長、 樫本スマートシティ化推進マネージャー、片山 DX 推進課係長、 村田情報システム課係長、坂口情報システム課係長、松尾 DX 推進課主査、 中村情報システム課主事
6	公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7	傍聴者	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和8年1月7日

協議事項等

1	開会
2	あいさつ
3	会長あいさつ
4	議事 上田市スマートシティ化推進計画の策定について ○事務局から説明 以降、協議
	<p>【会長】 ただいまの説明に対して、質問・意見があればお願いしたい。</p> <p>【委員】 資料1の13ページに「2.1 計画の構成」があり、42ページに「4.1 これまでの取組」の表がある。13ページの「基本方針」「基本施策」と、42ページの「基本方針」「基本施策」の項目の名称と変わっている。これは今回の改定に合わせて、「基本方針」「基本施策」の名称も変更しているという理解で良いか。</p> <p>【事務局】 今回、第二次計画を策定するに当たって、よりわかりやすく表記するような形で、3つの基本方針を変更している。13ページの方が新しい基本方針の枠組みになっている。また、42ページの方は、これまでの取組ということで、第一次計画の枠組みの中で取り組んできた内容を当て込んでいる。</p> <p>【委員】 新しい計画は、非常に分かりやすい言葉になっていると感じた。第1回の会議で、個別施策のロードマップで、各項目に対して評価されていたと思うが、その時の評価対象というのは、当初の計画の項目に対して評価をされていた。第二次計画での施策の評価は、これまでの評価表をそのまま使用する</p>

るのか、それとも新しい基本方針等に改訂した状態で評価を行っていくのか。基本方針等の意味合いが変わっているとすると、第一次計画の5年間の評価とこれからの評価で軸が変わってくると思うが、第二次計画で今後どのように評価していくのか、考えはあるか。

【事務局】 第二次計画の策定後は、各個別施策のロードマップを作成する予定でいる。それにより評価の対象は変わってくる。その評価についても、実施時期は未定だが行う予定でいる。これまでは担当課による定性的な評価を実施しているところだが、評価方法についての意見をいただいている。また、パブリックコメントでも数値化できるものは数値化するよう意見が出ており、そこが評価の軸になると考えている。現時点で具体的な評価方法の明言はできないが、客観的に評価できるような形にしたいと考えている。

【委員】 42ページ「4.1 これまでの取組」の表の右側に、主な取組ということで、継続・拡大の旨が記載されている。当初の個別施策ロードマップにはより多くの取組が記載されており、取組の一部を抜粋しているかと思うが、中心になる取組を抜粋しているのか、抜粋した取組だけを今後進めていくということなのか、抜粋の選定方法や意図はどのようなことか。

【事務局】 個別施策ロードマップでは64の「主な取組」を記載している。そこから、成果となった取組を中心に、担当課において継続または拡大の評価を行った取組について、抜粋し記載している。ここに記載がないからといって、それを取り組まないということではない。今後、追加していくものもあると考える。

【会長】 41ページの表に継続と拡大の旨が記載されているが、これまでの取組として出すのであれば、完了した取組も記載すると良いのではないか。継続の取組については、運営が安定化した、定着した取組と捉えればよいのかどうか。

【事務局】 継続の取組について、様々な取組があるが、終了するものは少ないと考えている。システム導入後の機能追加なども想定される。安定・定着という部分もあるし、世の中の情勢等を踏まえて具体的な取組を毎年検討していくので、その中で拡大・縮小する場合もある。

【会長】 「主な取組」なので、全部は載せないとしても、新たな取組を追加するとどんどん膨らんでいってしまう。継続していかなければいけないという考えはそうだが、過去の分は完了し、あとは最低限の維持費で運用していくというイメージもある。膨らんでいくというよりは、初期の導入が終了し、安定期に入っているというようなことが示せると、見ている方としても安心する。このまま取組が膨らんでいくのは良くないのでは、と感じた。

【委員】 前回の審議で、最後の表の意味が分かりづらいという意見があったと思う。4章の資料編ということで掲載されており、これまでの取組をここに載せる意味にもよると思う。例えば、これが第三次になったときに、この取組は一次で成果としてスマートシティ化を達成したというようなことがわかって、それで第二次で継続・拡充していく、ということを時系列的に理解できる方が、資料として意味があると思う。拡充と継続しかここにないということも若干違和感を覚える。資料なので、終わった

ものもわかりやすく記録として載せていくということも出たと思う。第一次の取組の記録として、もっとわかりやすくなると良いと感じた。

【事務局】 ご意見のように、資料編という項目になるので、記録として掲載しており、第一次計画における取組を総括して、主な取組を記載した。初期の対応は終了し、運用を継続していく取組については表現が難しいところではあるが、今後この取組をどうするのかといったところで、継続・拡大の旨を示している。

【委員】 取組の中で、ある程度成果を上げたものと、そうでないもので分けた方が良いのでは。同じ継続でも、改善が必要なく単に継続するだけのものと、まだ改善が必要な取組に分け、第一次ではとりあえずここまで成果を上げたということが見えると良い。この資料だけ見ると、継続か拡大しかないのでは、何一つ成果があったか、もしくはどの取組もうまくいっていないという見方もできてしまう。資料なので、数が多い少ないは重要ではなく、第一次ではここまで評価できる取組があったということと、それをさらに続けるということで、もう一枚資料を追加しても良いと思う。あるいは、継続の取組をさらに分類することもできると思うが、一応の到達点が見える形にされた方が良い。

【会長】 むしろ、このページを削除してしまうのはどうか。このページがあるからややこしいという気がする。前の計画と見比べてもらえれば良いが、一部抜粋ということで記載されているので逆にややこしくなっている。今回の取組を出すために前回の取組を整理し、力を入れるべき取組を示すというプロセスとしては良いと思うが、資料としてはなくても良いとも感じる。

【マネージャー】 掲載に当たっては悩んだ部分である。初めて計画を目にされる方がいた時に、第一次は何だったのかという疑問に対して、エッセンスとして紹介するものはあったほうが良いだろうということで、資料として掲載している。前回の計画を細かくみて、今回終わる取組、社会実装が済んだ取組、新しい手段が出てきたので考え直すものなど、おそらく色々なフェーズに分かれてくる。そこまではまとめきれずに、この形になったというのが現状。なので、思いきってこのページを削除という意見も確かにあり、計画発表と同時に、前の計画に対する総括のようなものを別の形で公開する等の方法もあるかと思う。第1回の審議の際、松枯れ対策についての議論があったが、あれがまさにこの例で、今の技術とコストメリットを考えた時にどうなのかと、上田市の被害状況は収まっていく方向にあるというところで、一旦取組を収束することとした。そういったものも、どういう判断でどうなったのか、わかるものがどこかにあったほうが、このモヤモヤは消えるのかと思っている。

【委員】 提案だが、「これまでの取組」というタイトルなので、第一次でどうだったか全部示さなければいけないイメージになってしまうのだと思う。タイトルを、「第一次の計画から引き継いだ取組」のように変えるのはどうか。

【会長】 あくまでも計画の書類なので、このタイトルと内容ではない方が良いと思う。今までの取組については、ロードマップで ABCD での評価を含めて確認しているので、あれがある意味詳しい資料で、これまでの取組と言われるとあれをイメージする。それなのでこれ1枚では、初めて見た人も、知っている我々にとっても納得いかないものになってしまう。

【事務局】過去の取組は、ロードマップとして既にホームページに公開されており、評価はロードマップにゆだね、計画は計画として削除する方向も検討したい。

【会長】このページを残すのであれば、ロードマップの URL を掲載して誘導してもらえれば良い。

【委員】タイトルも、「第一次から引き続き行う内容」のような形に変えれば良い。それなら、継続していくものと拡大していくものがあると納得ができる。

【事務局】それでは、タイトルの変更と、URL の記載で対応したい。

【委員】7ページの計画の期間で、令和12年度まで5年間の計画と示されており、ロードマップを毎年度更新すると示されているが、これは新しい知見や新しい事態が出てきた場合には、都度検討していくということで良いか。なぜなら、今問題が生じてきており、具体的には、NHK のインターネットサービスである「NHK プラス」が「NHK ONE」に移行したことによります。この「NHK ONE」の視聴は契約して受信料を払う必要がある。今までの「NHK プラス」では、「NHK for School」という子どもたちにとって非常に有益なサイトがあった。SDGs や災害についても本当によくまとめられていたが、「NHK ONE」になったことで、契約し、受信料を払っている家庭の子どもでないと見られなくなってしまった。これは、誰一人取り残さないというデジタル化の趣旨と食い違ってきてしまうので、一つの方法として、図書館にテレビを設置できないか提案しようと思っている。図書館には現在テレビが置かれていないが、情報提供・資料提供・勉強の場という意味で、図書館にテレビを置いて、「NHK for School」が見られるようになれば、皆が視聴できる手立てになると思う。こうしたように、新たな課題が出てくると思うので、今後も新たな課題やそれに対する取組を取り上げていく方向を堅持してもらいたい。

【事務局】今後、現時点では考えられないような制度の変更や、新たな技術、新たな課題が出てくると思う。ロードマップの毎年の更新に当たっては、これまで同様、取組の追加もしていきたいと考えている。

【会長】NHK は総務省も関係するがいかがか。子どものアカウントは根深い問題だと思う。子ども自身のアカウントが必要となると、子どものパスワードを管理しなければいけない。なので、公共の機関でインターネットを使って視聴したいと思った時に視聴できなくなってしまう。

【オブザーバー】「NHK ONE」は、各家庭、受信契約者の方で入力すれば、家族は利用できる。公共施設となるとまた別問題なので、そのあたりは意見として当局の放送課に伝えたいと思う。

【会長】せめて子どもだけでもいいので、公平性が担保できれば良いと思う。

【委員】テレビがない家庭はたくさんある。そうした状況でも、学校や公共施設で視聴できると良い。「NHK for School」には子ども向けの素敵な情報があるということを図書館では PR してきている。一方で、一部の子どもしか視聴できないという事態になってしまっていて、何とかしてほしいという思いがあ

る。それこそ、情報格差になってしまうと思う。

【オブザーバー】確かに、テレビがない家庭の増加は統計にも表れている。子どもに対する手立てということについて、放送課に伝えたい。

【委員】昔は小学校に必ずテレビがあったが、今はないのか。

【委員】小学校にはテレビが入っていて、受信料も払っている。

【会長】現在の課題は、受信料の支払いとオンデマンドのアカウント再生が紐づいてしまったということ。テレビを置けばそこで受信契約がなされるので、その施設で「NHK ONE」を利用するのは問題ない。もちろん、別にテレビを置かなくても、受信料を支払って「NHK ONE」を利用できれば良い。

【委員】「NHK for School」が視聴できれば問題ないので、図書館にテレビを置いたらどうかという話である。

【委員】資料3の前回出た意見の、「(2) 反映する意見」のNo. 3の最後の方にある、民間企業や市民からのデジタル化の窓口を明示したらどうかという意見に対して、計画の中で対応はしているか。

【事務局】手法の見直しということで一括して対応している。今現在、調整役ということでDX推進課が窓口になっているが、DX推進課だけというよりも、各課がそれぞれ専門的な分野で事業に取り組んでいる中で、各課でも相談があればもちろん受け付けていく。受付窓口を一箇所に集中するというよりも、受付も含めて横の連携を保ちながら全庁的な取組にしていくといった意味も込めて、手法としてまとめている内容になる。

【委員】これまでもそうだったと思うが、意見が出たということは、もっと意見を出しやすく、受付しやすくしてほしいということだと思うので、何らか記載があったほうが良いと思う。検討いただきたい。

【事務局】26ページの個別施策⑩、あるいは別のページの修正で、全庁的に接点を持ちやすく、協働の機会を広げ、受け付けていくということを具体的に明記していきたい。14ページにも、計画の推進体制を記載している。上田市スマートシティ化推進本部のもと全庁横断的に推進する旨を記載しているが、受付窓口の記載はない状況。資料3では、手法の見直しということでまとめてしまっているが、具体的に記載する方向で修正したい。

【委員】30ページの個別施策⑭GISのところ、現状と課題の3段目に、「しかしながら、現時点では行政保有の地理情報が民間事業者にとって利用しやすい形態となっておらず、官民連携の障壁となっています。」と書かれている。一方で、目指す姿の中には、具体的に何を行うかが書いておらず、単に効果的に活用する旨が書いてある。単純に読むと、利用しやすい形態になかったり、障壁があるものを効果的にそのまま使う、という風にしか読めない。技術的にどういう問題があるのかまではGISの専門家ではないので想像できないが、基本的にGISというのはそんなに種類があるわけではないの

で、データの持ち方などは統合できるような気がしているが、記載内容に具体性がないので、具体的な対策を入れていただきたいと感じた。そういう意味では、その後のページの、クラウドサービスの利用、情報セキュリティの向上についても同じで、一般論としてクラウドを使った方がいいとか、セキュリティを向上しようということは良いが、実際にやるとなると、単にクラウドを使えばセキュリティが単純に上がるわけでもなく、具体的にはどうするのかと思う。

官民の情報の共有のところ、商工会議所の建設部会の方から、例えば公共工事の報告や発注の際に、紙ベースのものがまだ非常に多く、一方で国や県、他の自治体ではかなり電子化されていると聞いており、そこを上田市も何とかならないか、という意見を聞いたことがある。ロードマップの部分になるかはわからないが、具体的に、他の自治体に早く追いつけるような施策を明示できればと思う。

【事務局】 GIS の関係は、この目指す姿・取組例の中に、もう少し具体的な内容を書きたいという想いはあるが、一方で現在、インターネット上でも様々な地図情報をフリーで見られるサービスが出来ている。オープンデータ化も含めて、市で新たな GIS システムを導入する、ということは考えられるとは思いますが、それが本当に利用者にとって、費用対効果も含めて適切なかどうかは、慎重に考えなければいけない。そういう状況も踏まえて、この程度の表現になっている。クラウドサービスについても、当然、セキュリティ含めメリットデメリットがあると思う。総務省の方で、行政の基幹系システム、情報系システム含め、ガバメントクラウドの利用が推進されている中で、セキュリティの方式についても、現在の三層分離からゼロトラストの考えに変化している状況。民間のクラウドサービスをどう使っていくのかというのは、そうした状況と合わせて変わってきているところもある。市の方で先んじて決断してシステムを導入するのは、アーリーアダプターとしての危険性もあると考えている。工事関係については、入札・契約の関係など、県のシステムの共同利用等を進めているところではある。そのあたりの取組はロードマップにも掲載されていたと思うが、引き続き進めていかなければいけないと思う。

【事務局】 情報共有システム関係で補足の説明だが、今年の10月1日から試行を始めている。実際に情報共有システムを使うには、業者側から利用の申し出があって、それに対し手続きをして進めていく流れになっている。市の技術職の職場でやっている技術専門部会という部会の中で、今年進めていこうという話になっていて、実際に現在1件進めている。運用後、効果や手間などのデータを取って、今後の導入を検討する流れになるかと思う。少しずつではあるが、取組を進めている状況。

【部長】 今回の計画にはある程度大きな方向性が書かれており、その方向性をもとに、ロードマップで具体的な事業が入ってくる。新しいロードマップを作った際には、審議いただくようになるが、先ほどの地理情報システム、入札関連の取組は現行のロードマップにも事業として記載されているが、新たなロードマップでも引き続き検討事項になるかと思うので、その際は改めて協議していただきたいと思う。

【委員】 時間がかかるものもあるかと思う。技術なので採用するなら早い方が得だということもあるので、検討していただきたい。

【会長】 部長から話があったように、今回の計画は「方針」なので、細かいことはその時々で申し入れ等で

ければ良いと思う。クラウドサービス等についても、おそらく書いておかないと利用できないというような雰囲気もあると思う。オンプレをやらないと言っているわけではない。オンプレだとリプレイスのタイミングでしか新しいことをできないので、そういう意味では、やはりクラウドサービスでいいものがあれば使っていこうというのは、計画に書いてあれば妨げにならず、柔軟にできるのではないかと思う。

【委員】 基本的には、書いておくことに反対しているわけではないが、書き方がはっきりせず、やる気があるのかなのかわからない書き方に見えてしまう。技術的にはどれがいいということはなく、技術は常に競争なので、その時々で技術は変わっていく。幅広い技術を列記して最適なものを選択していく描き方も良いと思う。

【会長】 意見を踏まえ、表現を変えられるところは変えていただければと思う。

【委員】 先ほどの話で、全体の流れを決めるのがこの計画なので、細かいことはロードマップでということだった。現在のロードマップを見ていて思ったことだが、到達点がどこなのかということはある程度決めておく方が良いと思う。もちろん決められない取組もあると思うが、ここまでやったらとりあえず完了、というようなエンドポイントを作っておくと、結果として見やすく、数値化して評価もしやすい。何パーセント進んでいる、全然ダメだ、完了したということが言えると、第二次計画の進み具合が具体的に数値化されて見やすくなる。第一次から継続する取組を見て、継続と拡大とあるがどこでエンドになるのかわからない。もちろん新しい技術もどんどん出てくるので、5年先の未来は誰にも分らないが、ある程度の到達点、目標値を決めておく、進捗がイメージしやすくなる。計画については、良くできていると思いつつ、具体的なイメージがあまり見えてこなかった。これは計画なのでそれでよいと思うが、ロードマップで具体化する際には、できるものについては最終的な到達ポイントを明記する形で作っていくと分かりやすいと思う。

【事務局】 計画では、「目指す姿」といった形で、数値化できないような形で将来の姿を描いているが、到達点や最終形がどういう形が良いのかということは、現行のロードマップを進化させる形になる。ロードマップなので年度ごとの目標を立てる形にはなるが、事業が通過点なのか完了なのかも、ロードマップで示せるよう検討したい。

【マネージャー】 今回、計画を作るに当たって、「目指す姿」について、主語を我々職員にしないで書くという想いで作っている。上田市が具体的な取組を実現します、ということではなく、市の取組の結果、こういう目指す姿があるということを示している。その目指す姿に到達するため、具体的に何に取り組むのかは、ロードマップの中でイメージしていく。なので、技術が入れ替わったり、セキュリティに対する考え方など、様々な方針等が変化していくので、柔軟にロードマップの中で対応していくことを想定して計画を策定している。そのため、計画では到達点が見えないというのはそのとおり。隠れた主語として、計画を読まれた方、市民や子どもたちというのが、目指す姿の中にあるイメージを捉えていただければと思う。もう一つ、継続の取組がどこで終わるのかという質問については難しい問題かと思う。私個人の考えだが、そもそも、このスマートシティ化推進計画というものが、独立して存在する必要性は、将来的には無くなるのではないかと思っている。色々な個別計画の

中にデジタルが適用されているということが当たり前になってくれば、デジタルという手段の個別計画というのは必要なくな。例えば高齢者福祉の中にデジタルが入っているのが当たり前になる世の中が来れば、この計画に書いてある高齢者福祉のことは全て高齢者福祉計画に、というように他の計画に浸透していくのが理想だと思う。この5年間でそこまで到達できるかどうかというのは、もちろん我々の努力もあるが、世の中のデジタルの受容性も見ながら動いていかなければいけない。継続する取組が、どこで個別計画に浸透し、あるいは実装されたので終了するかというのは、引き続き庁内で検討し、一区切りとなる指標があれば、今後示していきたい。

【会長】今回はデジタル、情報関係の委員会なので、それが手段としてどう使われるかという方向性を議論していただくのが良い。デジタルはあくまで手段なので、目指す姿にはデジタルは関係ない。例えばデジタルアーカイブで言えば、デジタルである必要性はなく、過去のものに無制限にアクセスできれば、デジタルでないほかの手段で保存されていても良い。ただ、アナログに戻ると不便なので、現状はデジタルしかないという結論になる。そのため、なるべく、目指す姿というものから、情報を使っているということが消えて、市民にとって良くなっているということ、皆さんに確認してもらえると良い。技術が進展・浸透していけば、技術が透明に、当たり前になるので、この委員会がなくても、それぞれが独立して進めれば、自然にデジタルが使われる、というのは良いと思う。この目指す姿を見直したときに、あまり技術が前面に出すぎている方が悪いという気がしている。

【マネージャー】デジタルであることが必ずしも幸せということではないと思う。あくまで今現在、世の中における手段として認められつつあるものを使っていこうというのが、この計画だと考えている。

【委員】7ページに記載されているように、具体的数値とともにロードマップを作成し評価していくということを、しっかりとやっていただければ自然にできるようになってくると思う。

【会長】そういう視点から、抜けている方向性がないか、この方向性はおかしいのではないかとすることを重点的に見てもらえれば良いと思う。KPI や具体的な数値をつけてしまうと、それを絶対に満たさなければならず、限られた予算では難しい。そのため、計画を推進する中で濃淡が出るので、目指す姿では方向性を示すしかないという気がする。こんな観点で意見などあればいかがか。

【会長】全体を通して何かあれば委員の皆さんにお願いしたい。対面で議論する機会はこれが最後になる。その後でいただいた意見や修正案は、私と事務局に一任させていただき、まとめさせていただこうかと思う。それを踏まえて、何かご意見あればお願いしたい。

【委員】先の話になるが、第一次計画の5年間で過ぎて、第二次計画の5年間のフェーズに入らな中で、どこかの時点で、市民が、行政の行う施策に対して、どのように感じているか、満足度を得ているというのは、どこかで測る予定はあるか。この計画単独ではなく、市全体の構想計画も含めての満足度調査のようなものになるかもしれないが、現時点で何か計画しているか。

【事務局】現時点では、スマートシティ化の推進に関しての単独でのアンケート調査は考えてはいないが、上位計画の総合計画では、改定や中間点にあわせてやっていると思う。そのあたりも含め、今はアン

ケートを取るのも、例えば市公式 LINE 等があれば時間がかからない部分もあるので、他の計画との足並みを揃えながら、スマートシティ化単独でできるのかも検討していきたい。

【委員】今のアンケートの話で、デジタルで実施すると、デジタルが使われていない方の意見が落ちてしまうことが考えられる。

【事務局】デジタルがなかった時代は、それなりのアンケートを取っているので、手法や実施の可否も含めて検討したい。

【委員】地元の新聞で、市の公式 LINE で道路の情報を通報できるということを22日から始めることを知った。運用について、市民が LINE を使って通報すると、その後どうなっていくのか、簡単な運用、概要について、もしわかれば教えて欲しい。

【事務局】市の公式 LINE を使った通報システムが今月下旬にスタートする。昨年来検討を進めてきて、市職員や郵便局の協力の基、実証を進めてきて、今回、社会実装という形で市民向けに公開している。道に大きな穴が開いているだとか、カーブミラーが壊れている、あるいは、公道の死獣について、写真を撮影し LINE で送信いただくと、管理する部署の職員が確認して対応する。これまで電話の通報だと、市の職員も通報する市民も、例えば場所を伝えるのが大変だといったことがあり、LINE 通報システムを導入した。

【委員】緊急的というよりは、もうすこし時間的に余裕のある情報を通報するイメージか。

【事務局】これまでは、緊急度合いの判断も、通報を受けて話を訊いて、実際に職員が見に行かなければわからない部分があった。LINE を使えば写真を見て緊急度合いが分かるということもあるので、状況に応じてのレスポンスになるかと思う。また、全ての通報に回答するというのは逆に職員の負担になるため、通報を受けたものについては、職員の方で判断し対応するといった運用になる。

【委員】通報の際は、位置情報も同時に送られるのか。

【事務局】そのとおり。

【会長】その他、意見がないようであれば、本日の議事はこれで終結とさせていただきます。

5 その他

6 閉会